



## できごと

平成22年1月27日、函南町中央公民館において、「静岡県立中央図書館新刊児童図書巡回展示研修会」を開催しました。

新刊児童図書約1,000冊を会場に展示するとともに、「新刊書の選書について」と題して、静岡文化芸術大学の林左和子准教授に講義をしていただきました。

県内の図書館員、小・中学校の司書教諭や学校司書など、現在実際に選書に携わっている参加者の方々が、熱心に新刊を閲覧されていました。

また、講義終了後には資料相談の時間を設け、資料を閲覧しながら、選書についての相談を受けました。

(2ページ目にて、概要を紹介します。)

## 子どもの本に関する賞

子どもを読者として想定している本にも様々なものがあり、日々多くの本が刊行されています。その中から子どもに与える本を選ぶ際に、選択の候補として、子どもの本に関する賞を受賞した作品も検討してみたいかがでしょうか。

今回は、この1年間に発表された子どもの本に関する賞の受賞作の中から、主なものを紹介します。賞の中には長く続いている伝統的なものもあります。また、新人を対象としている賞のために、まだ受賞作が刊行されていないものもあります。海外の受賞作の場合には、翻訳されて日本で出版されるまでに時間がかかるものもありますが、今後の参考にさせていただければ幸いです。

(3ページ目にて、概要を紹介します。)

## 子ども図書研究室のテーマ展示

耐震補強工事のためお休みしています。

### イベント情報 その1

グランシップ 県立図書館コーナー  
えほんのひろば“おはなしかい”のごあひない

グランシップ県立図書館コーナーえほんのひろばでは、定期的におはなしかいを開催しています。

毎週火曜日：午前10時30分から  
「0歳からのおはなしかい」

第3日曜日：午前10時30分から  
毎週木曜日：午前10時30分と午後3時から  
\*国民の休日、その他臨時でおはなしかいをお休みすることがあります。

4月・5月の予定

4月13日(火・0歳から) 8日、15日(木)

5月11日、18日(火・0歳から)

6日・13日・20日(木) 16日(日)

### イベント情報 その2

国際子ども図書館

開館10周年・2010年国民読書年記念  
展示会「日本発 子ども本、海を渡る」

海外の子どもたちに、日本の子どもの本はどのように読まれているのでしょうか。日本語の原書と30以上の国・地域で出版された翻訳版など合わせて約300点を展示しています。国や地域の文化や習慣の違いによって、絵や文章の違いが見られるなど、大変興味深い展示になっています。

期間：2010年2月20日(土)～9月5日(日)

時間：午前9時30分～午後5時

休館：月曜日、第3水曜日(資料整理休館日)  
国民の祝日・休日(子どもの日を除く)

会場：国際子ども図書館  
3階 本のミュージアム

\*入場無料

住所：〒110-0007

東京都台東区上野公園 12-49

TEL:03-3827-2053(代表)

TEL:03-3827-2069(録音による案内)

## 新刊児童図書 巡回展示研修会報告

子ども図書研究室では平成 15 年度以降、出版された新刊児童図書のほぼ全点を購入し、子どもと子どもの本をつなぐ活動をされている大人の方に利用していただいています。今回は、この新刊児童図書のうち、2009 年 8 月から 11 月に出版されたものを展示しました。

**新**刊書の傾向について：当館職員から、今回用意した新刊を中心として、話題になった新刊などをご紹介します。

『獣の奏者』（上橋菜穂子 / 著 講談社）の続編、福音館書店から限定出版された科学絵本、『ごきげんなライオン』シリーズ（ルイーザ・ファティオ / 著 BL 出版）の復刊、『魔女の宅急便』最終巻（角野栄子 / 作 福音館書店）などを紹介したほか、「角川つばさ文庫」や伝記などの出版についても触れました。

**新**刊書の選書について：林左和子講師から、新刊書の選書について、講義をしていただきました。講師の言葉の中から、印象的だったものをご紹介します。

児童サービスが目指すのは、すべての子どもたちに等しくその必要としている資料を提供することであり、その「必要」には潜在的な要求が含まれる。

県内外での相互協力体制（ネットワーク）が整いつつある現在においては、収集方針、選定基準を今まで以上に明確にする必要が出てくる。

ネットワークで対応できる、対応してよいものに対し、ネットワーク対応に向いていないもの、すなわち、自館で所蔵していないと困るものがある。それは、借りてくることが難しい本のほか、潜在的な要求を刺激する本であり、利用者がその存在を知らず、図書館でなければ出会えない本と言える。

本を選んで終わりではなく、子どもに届ける

までが選書であり、提供を意識して選書する。

選んだ図書に失敗はない。提供の仕方を変えてみるとよい。

選ばなかった失敗はあるが、フォローは可能である。選ばなかった本の動向に注意する。他の人はどう受け止めたか、書評を見る。現物を見る機会を作る、など。

ご自身の経験も交えてなごやかにお話しただきました。

**資**料相談：講義終了後は、林講師と県総合教育センターの学校図書館担当である夏目指導主事のほか、当館職員も一緒に、新刊を閲覧しながら資料相談を受けました。参加者からは、幼児向けの文学全集などはないか、中学校の学校図書館に置く本について、廃棄基準について、選書について相談できる方がいない悩みなど、様々な相談が寄せられました。

**ア**ンケートから：今回の研修会に対して、実際に内容を確認できてとても参考になった、毎年または年数回開催してほしいなどのほかに、参加者数に対して会場が狭かった、リストがほしかったなどのご意見もいただきました。今後の参考にさせていただきます。

### 所蔵資料から

#### 知識

『きゃべつばたけのいちにち』



甲斐信枝 / さく

福音館書店

2009 年 9 月

夜明けに始まるきゃべつばたけの 1 日を、虫やかえるなどに焦点を当てて描く。「かがくのとも」1976 年 5 月号のハードカバー化。同著者の科学絵本が 6 冊同時に限定出版（復刊）されたが、そのうちの『あしながばち』と合わせて読むと、あしながばちの行動についてもよく分かり、興味深い。残念ながら、既に出版社では 6 冊とも品切れとなっている。

（鈴木由）

\*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。

## 子どもの本に関する賞

ニッサン童話と絵本のグランプリは、アマチュアを対象にした、創作童話と絵本のコンテストです。今年は『トンノの秘密のプレゼント』（田中きんぎょ / 作）と『おんでこのそら』（宮崎優、宮崎俊枝 / 作・絵）が受賞しました。いずれも作者は新人の方で、作品はまだ出版されていませんが、これからの活躍が期待されます。

最近1年間に子どもの本に関する賞を受賞した作品を表にまとめてみました。

## 所蔵資料から

### 絵本



『たいふうがくる』

みやこしあきこ / 作

BL出版

2009年12月

前回のニッサン童話と絵本のグランプリ受賞作。「ぼく」は海に遊びに行くのを楽しみにしていたが、前日に台風が来てしまう。白黒を多用して嵐を強調し、最後に窓からの青い空を印象的に見せる。台風一過の青空を経験した人ならばあの開放感を思い出すのではないか。(剣持)

賞名	受賞作品 (*印は当館所蔵)
赤い鳥文学賞	『ハナと寺子屋のなかまたち 三八塾ものがたり』 (森山京 / 作 理論社) *
小川未明文学賞大賞	『アンモナイトの森で』(市川洋介 / 著 未刊行)
けんぶち絵本の里大賞	『いいから いいから 3』(長谷川義史 / 作 絵本館) *
講談社出版文化賞絵本賞	『くまとやまねこ』(酒井駒子 / 絵 湯本香樹実 / 文 河出書房新社) *
高橋五山賞	該当なし
産経児童出版文化賞大賞	『0.1 ミリのタイムマシン 地球の過去と未来が化石から見えてくる』 (須藤斎 / 著 くもん出版) *
小学館児童出版文化賞	『走れUMI』(篠原勝之 / 著 講談社) * 『里山百年図鑑 野遊びを楽しむ』(松岡達英 / 作 小学館) *
坪田譲治文学賞	『トーキョー・クロスロード』(濱野京子 / 著 ポプラ社) *
新美南吉児童文学賞	『遠くて近いものたち』(山中利子 / 著 てらいんく) *
ニッサン 童話と絵本のグランプリ	『トンノの秘密のプレゼント』(田中きんぎょ / 作 未刊行) 『おんでこのそら』(宮崎優、宮崎俊枝 / 作・絵 未刊行)
日本絵本大賞	『カワセミ：青い鳥見つけた』(嶋田忠 / 文・写真 新日本出版社) *
日本児童文学者協会賞	『やぶ坂に吹く風』(高橋秀雄 / 作 小峰書店) *
日本児童文芸家協会賞	『彼岸花はきつねのかんざし』(朽木祥 / 作 学習研究社) *
野間児童文芸賞	『かりんちゃんと十五人のおひなさま』 (なかがわちひろ / 作 偕成社) *
ひろすけ童話賞	『ジンとばあちゃんとだんごの木』(福明子 / 作 あるまじろ書房) *
福島正実記念SF童話賞	『妖精ピリリとの三日間』(西美音 / 作 岩崎書店) * 『きもだめし 攻略作戦』(野泉マヤ / 作 岩崎書店) *
椋鳩十児童文学賞	『ひらがなだいぼうけん』(宮下すずか / さく 偕成社) *
コールデコット賞	『The Lion & the Mouse』(ジェリイ・ピンクニー / 著 未訳)
ケイト・グリーンウェイ賞	『Harris Finds His Feet』(キャサリン・レイナー / 文・絵 未訳)

文学

『朝霧の立つ川』



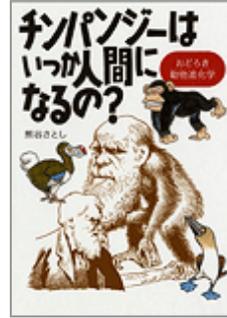
高橋 秀雄 / 作  
小林 豊 / 絵  
岩崎書店  
2007年11月

昭和30年代半ば、栃木県北部の村が舞台。皇太子ご成婚のためテレビを買った家もあるのに、ミチエの家は貧乏だ。両親は、昼間は揃って土方に出、朝と晩に田んぼの世話をする。6年生のミチエは弟3人の面倒を見ながら、飯を炊き、味噌汁を作り、おかずの心配をする。

全体を通して、貧しさの中でのミチエの成長を描くが、取り巻く人々が「いい人」なのが救い。ミチエがかぼちゃを切り分けながら、苦手だった分数を理解するエピソードが特に際立っている。【小学校高学年から】 (鈴木由)

知識

『チンパンジーはいつか人間になるの?』



熊谷 さとし / 著  
偕成社  
2009年11月

進化のしくみや進化論の歴史について、誤解されがちな内容や興味を集めそうなテーマを取り上げながら、親しみやすい文体で様々な視点から幅広く紹介する。ダーウィンが進化論をまとめたきっかけになったといわれているガラパゴス諸島の生物について、著者が実際に足を運んで見てきたことを交えて具体的に説明するなど、興味深い内容を含んでいる。厳密さを欠いた部分も少々見られるものの、進化という現象を考えるきっかけとしておすすめの一冊。

【小学校中学年から】 (剣持)

絵本

『ちびフクロウのぼうけん』



ノーラ・スロイエギン / 文  
ピルッコ・リーサ・スロイエギン / 絵  
みむら みちこ / 訳  
福音館書店  
2009年11月

春まだ浅い森の中、朝が来ても好奇心旺盛なちびフクロウは眠れない。雪の上にぴょんぴょんうごく何かを見つけ、初めて木の枝から地面に降りていく。出会った動物たちに自分との違いを見せつけられて自信をなくすちびフクロウ。だが、母親の言葉に励まされて…。時を得たアドバイスによって、一度沈み込んでから大きくジャンプする。そんな成長の様子がうまく描かれている。物語に寄り添う挿絵は、登場する動物の手触りや森の空気までも感じさせてくれる。

【小学校低学年から】 (牧田)

文学

『てのひらの味 食べ物の俳句1』



村井 康司 / 編  
とくだ みちよ / 絵  
岩崎書店  
2009年11月

「めくってたのしい俳句絵本」シリーズの1冊。松尾芭蕉や正岡子規から現代の俳人まで、食べ物を題材に詠まれた俳句を14句選び、イラストを添えて、絵本のように仕立てている。折り込みページを開くと、編者の解釈が添えられている仕掛けも面白い。明るくにぎやかなイラストと松尾芭蕉などの組み合わせの妙がある。俳句に抵抗なく親しむことのできるシリーズになっている。

同種のシリーズに「めくってたのしい短歌絵本」もある。【小学校中学年から】 (鈴木由)

\*表紙画像はすべて出版社の許可を得て掲載しています。